

# 読む湘南

～少しだけためになる海の話～

vol.7  
2012.6



海で楽しく遊びたい!!  
だったら  
ルールを  
守ろうよ

サーファーと漁師さん。海で遊ぶ人と海で生計を立てる人。そもそも海って一体『誰のもの』?マリンスポーツのメッカだからこそ、シラスがたくさん獲れる海だからこそ、考えなければならないのが海と浜のルールです。——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。

## ■漁業者として

**葉山氏** 漁業協同組合の組合長、葉山一郎と申します。地引き網とシラス引きを有限会社堀川網としてやっております。

まず初めに漁業者として私の考え方方は「レジャー、観光、漁師がそれぞれ共存してこの藤沢市を良くしていきたい」というものです。海・浜ルールを藤沢市と共に10年前に作りましたが、それが市民やサーファーになかなか浸透しませんでした。

ご存じのように、この地域は夏になると海が埋まるくらいのサーファーが集まります。トラブルも多く起こりました。地引きの網の中に入ってしまうこともたびたび…。一方でサーファー同士の対立もあります。具体的には片瀬の西浜は夏は朝8時以降、海水浴客専用になってサーフィンは禁止になります。すると多くのサーファーはサーフィン可能な鵠沼の方に押し寄せます。ところがそこでは鵠沼のサーフショップが大会をやってたりするんですね。そこに西浜のショップのお客さんが入っていってトラブルになる。これは何とかしなければ、と5軒ほどのサーフショップが集まってNPO(※1)を立ち上げました。私は漁業協同組合長の立場でそのNPOの会合に立ち会ったのですが、日本サーフィン連盟の方々には「海は皆のものであって漁師のものではない」と毎回言わされました。

なぜ漁業協同組合がサーフィンの大会と関係があるかというと、漁協は昔から海で事業を行う人たちに慣例として同意書というのを発行しているからなんです。辻堂で一番早くサーフィンをやった人でマーボーさん(MABO R OYAL:小室正則氏)という方がいますが、この方は大会をやるとき必ず組合に来て、ひとつお願いしますと挨拶

講師 藤沢市漁業協同組合組合長  
藤沢海・浜ルール委員会委員  
(有)堀川網社長

**葉山 一郎氏**



※1 ここで言うNPOとは「鵠沼の海を守る会」のこと。マリンレジャー同士の事故や漁業者とのトラブルが多く発したことから、藤沢のサーフショップ数軒が海岸の安全を守るという趣旨で立ち上げた。

サーファーと地引き網

共存のあり方とは?

していきます。組合は理事を集め、ここで大会をやつていいか話し合い、同意書を発行します。

大会は地引き網をやっている時は避け下さり、地引きが終わればその場所でもOKです。鵠沼より少し西の湘洋中学の辺りは空いていますので、そこで開催していただければ西浜から引地川河口に来るサーファーとのトラブルも避けられますよ。そういったことを辛抱強く話してきました。ようやく1年半くらいかかるて理解していただき、徐々に同意書をもらいに来る大会実行者が増えてきました。そして一昨年前の大みそか、色々お世話になりましたと同意書を持った方たちが来て頭を下げてくれました。これでやっと藤沢のレジャーと共に存できると、本当に嬉しかった。

事故は絶対に起きてはいけないんです。ですから皆さん、地引き網をやっているところには近づかず、その脇でサーフィンをしていただいて、ぜひ友達などを連れてレジャーを楽しんでもらいたいと思います。

**片山** 葉山さんより漁師からの視点でお話を頂きました。

一昨年の暮れにサーファーが頭を下げに来てくれて共存できるようになったというお話をでした。この部分、本当にそうなのか?というところを掘り下げていきたいと思います。はたしてマリンスポーツ側から見たとき、そこに問題はないのか?ここで脇田さん中心にお話を頂きたいと思います。脇田さんは片瀬でウインドサーフィンのショップをしております。また石



マリンスポーツ同様、海の幸も湘南の魅力の一つ。※写真と本文は関係ありません

2012年5月20日

第7回テーマ

湘南の海・浜ルールを考えよう

黒さんは神奈川県庁の水産課で漁業権の許可等のお仕事をなされています。

それでは早速、脇田さん、マリンスポーツ側から見て共存はできているのですか？

講師 湘南藤沢マリン連盟専務理事  
藤沢海・浜ルール委員会会長

**脇田 忠氏**

日本を代表するビッグウェイバー  
・脇田貴之氏の父



糧でやってらっしゃるということで我々としては一歩下がって漁師の方とお話をしても仲良くできているという状況だと思います。ですが、2010年に先ほどのNPO法人の方が4月～11月まで土日全部予定もないのに県土木事務所の方に砂浜使用を申請してしまったというのがありました。サーフィンの世界選手権に出場する日本サーフィン連盟の藤沢支部予選は40年来同じ場所（鶴沼スケートパーク前）で行われていて、地引き網の方からも40年間文句を言われませんでした。それを2010年には同じ場所でできなかつた。届出書に企画書も何にも添付されていないのに県土木が受理してしまつた。これは県土木も反省しています、昨年は以前の場所にまた戻りました。長年行われてきた場所なのに2010年だけできなかつたというのは問題かな～と思っています。まあ昨年は同じ場所でできたので、現状ではうまくいっているのかなと思います。

片山 戦後は食糧(魚)の配給（※2）ということで漁師さんの立場が非常に尊重されていた、という時代背景があったと思います。今でも漁師さん自身の生活がある。一方で湘南海岸におけるマリンレジャー人口は全国で一番ですね？そして湘南で漁業に従事する人は年々減少しています。時代背景がそうとう変わってきているんじゃないかなという問題意識があります。その中で、過去にあった漁業権という権利が少し強く主張され、あるいは守られているのではないか。それでマリンレジャー側が少し我慢しているのではないか（笑）という思いがあります。脇田さんどうですか、本音の部分では？

脇田 一昨年ですか、ウィンドサーファーが腰越の若い漁師さんにぶつけられてっていうか脅かされてセイルを切られまして、組合長の方に電話をして漁業組合の保険で補償してもらいました。そういうことをきっかけりやっていますので、漁業組合にあまり遠慮しているつもりはないですよ。最近漁師さんでもサーフィンやってる方が結構いらっしゃいますし、葉山さんとは昔の漁師みたいに胸ぐらつかんでオメエなんていうんじゃなくて、ちゃ

脇田 脇田と申します。現状ではマリンスポーツは遊びで、漁師の方は飯を食う

糧でやってらっしゃるということで我々としては一歩下がって漁師の方とお話をしても仲良くできているという状況だと思います。ですが、2010年に先ほどのNPO法人の方が4月～11月まで土日全部予定もないのに県土木事務所の方に砂浜使用を申請してしまつたというのがありました。サーフィンの世界選手権に出場する日本サーフィン連盟の藤沢支部予選は40年来同じ場所（鶴沼スケートパーク前）で行われていて、地引き網の方からも40年間文句を言われませんでした。それを2010年には同じ場所でできなかつた。届出書に企画書も何にも添付されていないのに県土木が受理してしまつた。これは県土木も反省しています、昨年は以前の場所にまた戻りました。長年行われてきた場所なのに2010年だけできなかつたというのは問題かな～と思っています。まあ昨年は同じ場所でできたので、現状ではうまくいっているのかなと思います。

※2 地引き網というのは昔、獲った魚を食料として、また余った魚を肥料として配給してきた。その分、県や国から砂浜の利用などある程度の権限を与えていた。

人と話しますから。ただ堀川綱さんの地引きなんかを見ていると、もうちょっとで網が上がってロープから網になっていくような所まで平気な顔してサーフィンしている方もいますから、ああいうのはマリンスポーツとしてちょっと恥かなって思ってます。

片山 ここで漁業権というのを何なのかというのをあらためてお話ししたいと思います。どこまでの権利があるのか、これは法的な解釈の部分もありますので、本日は神奈川県庁の水産課の職員、石黒さんに来ていただいています。ご説明頂いてもよろしいでしょうか？

石黒 神奈川県の水産課の石黒と申します。

講師 神奈川県水産課副技幹

**石黒 雄一氏**



漁業権またこういった漁業の調整等について担当している部署になります。漁業権は漁業法という法令で規定されており、「行政庁（基本的には県）の免許により一定の水面において排他的に一定の漁業を営む権利」と定められています。漁業を営む権利であって、営んでない時もしくは全く使っていない区域において他の人を排除するというような権利ではございません。漁業者の方が若干強く言われる時には「漁業権があるんだから出て行け」という風に言いますけれど、あくまでも漁業を操業する権利であって、営んでいない時は基本的には自由に使っていいですよというのが漁業権の基本的な考え方になります。

では具体的に漁業者にどんな権利が与えられているのか。例えば、ワカメや昆布のように岩に生えているもの、アワビやサザエのように定着性のある貝類は一般の方は獲らないで下さいね、というのが一つ。逆に言えば泳ぎ回る魚類については権利が設定されていません。先ほどから話にでている地引き網のように機動力に乏しい漁業は、保護なしに漁業そのものが成り立たないと規定されています。また漁業権が侵されたとき、それを救済する権利、すなわち侵害をやめてくれという権利、今後侵害されないよう予防してくれ、という権利が設定されています。



サーファーと漁業者のより良い関係とは？

片山 ありがとうございました。一言で言えば、漁業を「排他的に営む権利」があるということです。漁獲する行為に対して邪魔は絶対して



ビーチで無邪気な子供を見ると癒されますね

いけないよということです。ただし水面そのものを支配あるいは占有するという権利はないですよ、ということです。ここがポイントになるかと思います。石黒さん、行政の認可を出す立場としては難しいとは思うんですけど、この漁業権をめぐる対立について、せっかくなんて個人的な見解でもいいですので、感想やご意見をお聞きしたいのですが。

**石黒 サーフィン連**

盟との対立？両者の主張を聞いていますと、基本的には考え方は一緒です。漁業に対しては非常に尊重しています。サーフィン側からすれば、いつでも自由な国民全員の海という主張も分かりますし、一方で漁業者側からすれば操業が行われていなくたって海の中をいじられれば翌日の漁に響く、というのも理解できます。漁業法というのは昔は江戸時代から『一漁村一専用漁場』という言い方をして「海は漁師のもの」という考えのもとに元々始まっています。それが昭和24年に現代漁業法に改正されて、海は国民全員のもの、その中で漁業権というものは操業する権利だという風に設定されました。ですので答えにならないかもしれません、また時代とともに状況が変わってくると思うんですね。その中で漁業に支障の無い範囲でマリンレジャーも楽しめればいいのかなという風に思っております。

**葉山** 葉山さんにお聞きしたいのですが、漁業権という法的な解釈がある一方で、葉山さんは50年以上も地引き網をされていて、やはりその思いとか現場の状況というのがあると思います。マリンスポーツ側にこれはちょっと言っておきたいですか、漁師としての気持ち的にはこうなんだというお話があれば、いかがでしょうか？

**葉山** まず今『育てる漁業』というものをやっております。赤貝やハマグリ…。ハマグリは10年ほど前から放流しています。おかげ様でようやく増えてきました。今年は1週間前には10万個ばかり放流しました。サーフィンの方々にはそのハマグリを採らないでくださいというのが一つの願いですね。もう一つは、再度になりますが地引き網の中に入るのは非常に危険です。引っ掛けたら取れませんし、引っ張る力も強いですから命に関わります。必ず地引き網をかけている所は避けて下さい。それともう一つ、今は漁師が生産・加工・販売までしています。お客様はみなさんです。サーフィンの人たちが来て、シラスや魚を買っていたいっています。そういう部分でもようやく共存がもっともっと進めばと願っています。

## 漁業権||漁業を排他的に営む権利

**片山** 安全なレジャーで観光も振興すれば、結局は漁業側にも利益が、ということですね。これはマリンスポーツ側とも目指すべき方向は同じということが分かりました。ここで会場からご意見、ご質問をいただきたいと思います。組合長や脇田さんにお話を聞く機会はなかなかないので、ざっくばらんにいただければと思います。いかがでしょうか？

**参加者** 釣り人はどのように見られているのかということをお聞きしたい。

**葉山** 波打ち際で釣りをやっちゃいけないということは私どもは絶対に言っていませんが、このごろ聞いてみると、サーフィンをしているところでは釣れないそうです。サーフィンをやっている人たちのほうが若いので、なかなか65歳以上の人たちがトラブルをしてもおつかないのでそういうことはしないみたいですよ(笑)。本當は釣りをするとところはプロムナードというところを港を作り上げてありますので、そこで釣っていただければ良いなど。そうすればサーファーとのトラブルも避けられます。

**参加者** 海水浴のシーズンである7、8月中は交番があると思うんですが、湘南海岸は1年中人がいっぱいいますし、せめて土日だけでも交番があっても良いんじゃないかなと思います。なかなか警察じゃないと言えないようなこともあると思うんですよね。

**葉山** 今、自転車道路でサーファーと歩行者とのトラブルが発生しています。サーファーが運転する自転車に乗せたサーフボードのフィンがぶつかって怪我をしたりといったトラブルがありまして、私も交番があつたら良いと思っていました。「ビーチポイント計画」というのをやっていて、海上保安庁、警察、消防の方たちがたずさわっています。災害時はぜひ私たちを頼ってくださいと言っています。確かにおまわりさんが常駐する場所があれば、トラブルも減ると思いますね。大変結構なお話でした。

**片山** 「ビーチポイント計画」は安全管理や海難救助のためのステーションを作ろうという計画のことですね。ここで、関連するライフセーバーの方が何名かいらっしゃっているので、海・浜ルールについて、あるいは今までの話についてでも結構ですので、現場のお話をお聞かせいただいてもよろしいでしょうか？

**宮崎 尊氏** 西浜で40近くライフセーバーをしています。海水浴シーズンに限っていえば漁師さんたちとの共存という形でうまくいくているのかなと思います。特にサーファーやウンドに関してはローカルのショップの皆さんのがしっかりしているので、海・浜ルールについて、あるいは今までの話についてでも結構ですので、現場のお話をお聞かせいただいてもよろしいでしょうか？



津波警告の隣にあるのは海・浜ルールが書かれた看板＝片瀬東浜

り告知してくれていますし、我々も地引き網操業中を示す旗が出ている時はパトロールしながら海水浴客に注意を呼び掛けています。ただ昨今、一番怖いのはジェットスキーですね。それも、ローカルでない方、期間中に海の家を営業されている方の中にはルールを守っていない方も見受けられます。それから海の家の営業時間が長く、治安が悪いんじゃないかなというところもあります。

以前は17時で閉店していたのが19時、20時までやっていて、やがて花火が始まります。そういう方たちが遅くまで海にいて水難事故にという形、17時以降の事故が非常に多いです。

**片山** 加藤さんせっかくなので、海外の海・浜ルールの部分、あるいは防災的な観点で、もし先進事例があればご紹介いただきたいのですが。

**加藤 道夫氏** 日本と決定的に違うのは人命に対する考え方です。私ども日本のライフセーバーはボランティアですが、例えばアメリカの場合は浜にいるライフガード、これ全部公務員です。命に関わる仕事をアマチュアに任せるこという発想はアメリカにはないです。オーストラリアはうまくアマチュアの組織を浜の安全に組み込んでいます。平日はライフガード、プロの公務員が担当しますが、週末はアマチュアのライフセーバーと一緒にやっています。あとはパブリックの考え方といいますか、砂浜、海というのは基本的には公のもの。アメリカの場合は砂浜に何か営業的な建物を建てる事は認められませんし、たばこやアルコールも認められていません。特に泳ごうという人に対してアルコールを持ち込むこと、また販売することは許されません。そういう部分で公共の場所の管理が保たれているというのが海外の例。日本の場合は元々海水浴＝皮膚病対策から始まっているので、独自の海水浴文化になっています。そういうところにマリンスポーツ、マリンレジャーが発展してきて、ゾーニングを含めトラブルが起きている。ですから、また新たに海・浜ルールというのは現代に即した形で作らなければなら



地元の人間だけでなく  
観光客への海・浜ルール  
周知も課題の一つ

対立ではなく、共に同じ方向に歩んでいく

ないのではないかと思います。

**片山** 貴重なお話、ありがとうございました。最後に講師3人の方からお一言ずついただきたいと思います。いろいろな経緯を踏まえ、なんとか共存できるようになってきたという話をうかがいました。湘南海岸の海・浜ルールというのは全国のビーチが注目しています。さらに良くする、共存していくという視点で、もう一步進めるにはどうしたらよいか、まとめの言葉をいただければと思います。

**葉山** この湘南海岸を安全で安心なビーチにし、異業種の方々、市民と共に存して藤沢市のまちづくりをしていきたいと思っています。海に来ていよい空気を吸って、それで長生きをしてもらいたい。それが願いです。

**脇田** 海・浜ルールも県条例や公園法などが改正されたら変更して、また皆さんに告知したいと思います。最近、鎌倉では津波対策として黄色い旗とかですね、そういうのを是非湘南広域で統一して、海岸で大きい黄色い旗が振られたら避難しろよという形を海・浜ルールに取り入れていきたいなと思っています。

**石黒** 我々の立場からすれば、漁業者の方の操業を尊重しながら漁業をいかに発展させていくかというのが一つの課題です。その中で新しいレジャーができる、お互いに話し合いながら一歩ずつ海を上手に利用していただければ非常にありがたいと思います。



左から三片山湘南ビジョン研究会代表、葉山氏、  
脇田氏、石黒氏

**片山** 私はマリンスポーツをやってきた立場で、漁業やっている人を怖いなどという印象で見てしまっていた部分がありました。漁業VSマリンスポーツという構図を自分の中に描いてしまっていて、今日もひやひやしていました。しかし今日の議論

は全く逆で、対立というより同じ方向を向いているということを確認できたのは私にとって大きな収穫だったと思います。サーファーはマナーが悪いんで(笑)、そういう部分をきちんとやっていって、さらに前向きな共存のあり方を考えて、自分なりに訴えていきたいと思っています。本日は忙しい中、どうもありがとうございました。

## 第9回湘南ミニフォーラムのご案内

テーマ「湘南の快適な海水浴利用に向けて」

▼日 時 7月19日(木) 19:00~21:00

▼場 所 茅ヶ崎サザンビーチ海の家「夏俱楽部」

次回は海の家でやっちゃいます！

日本で最も多くの海水浴客を集める湘南海岸。これらの季節は近隣だけでなく、都内などから多くの人が押し寄せます。でも、そこには課題がいっぱい！ゴミはどこに捨てるの？車で来てもいいの？マリンスポーツとの住み分けは？もし事故が起きたら誰が助けてくれるの

### ◆講師

大久保義雄氏(茅ヶ崎海水浴場事業協同組合理事長)

加藤 道夫氏(日本ライフセービング協会神奈川県支部長)

鈴木 忠氏(茅ヶ崎マリンスポーツ連盟相談役)

?どうせ来たなら泊まっていってよ！etc…

あなたが日頃から思っている、より快適な海水浴について一緒に話し合ってみませんか？

湘南ビジョン研究会は、このミニフォーラムへの参加者を募集しています。7ページ記載の連絡先、またはホームページ ([www.shonan-vision.org](http://www.shonan-vision.org)) からお申し込み下さい。



# 海樂主義

シーカヤック日本一周「10,000kmパドラー」

「30代になって何かやりきれないなあと感じていたんです。自分の好きな海で新しいスポーツを、と思っていた時、シーカヤックに出会いました。乗った瞬間、衝撃を受けましたね。日本中を旅したい、自分を鍛えなおしたいという思い、そのすべてをシーカヤックが受け止めてくれると思いました。」

茅ヶ崎で生まれ育った小西さん。子供のころから水泳、空手、サッカー、テニスなど様々なスポーツをやってきた。大学でアメフトをやった後、銀行に勤めて10年。自分にもまだ何か成し遂げられることがあるんじゃないかな?心のどこかにあったモヤモヤを、シーカヤックとの出会いが吹き飛ばしてくれた。仕事を辞めるほどめり込んだ。

「どうせやるなら本格的に、と思って。安定を求める下一步も踏み出せないから。日本一周した人は実はほかにもいるんですが、数年かけ分割して達成した人ばかりだったので、じゃあ俺はノンストップでって決めました。仕事を辞めちゃったので資金稼ぎは日雇いの仕事で。結果的にこれが体力、精神力を鍛えることになりました(笑)」

——1万キロという数字は気が遠くなる

「サポートなし、ノンストップで1万キロ以上漕いだのは世界で僕だけですね。伴走船や陸上のサポートがない、完全な1人旅。停泊するのは主に漁港です。ビーチの場合、翌朝波が高いと沖に出られなくなるから。カヤックは陸に揚げ、漁師さんに事情を話して置かせてもらいました。99%の方は「船乗り」として認めてくれるのか、快くOKしてくれましたが、中には「ここは遊び場じゃない」と言われることも(笑)。2010年の4月に出発して6~8月に北海道をぐるっと回り、9月に日本海を下り始めたとき、「冬の日本海はとてもじゃないが渡れないぞ」と心配してくれる漁師さんもいましたね」

——食事は?

「生活に必要な一切合財をカヤックに詰め込んでいたので、基本的には自炊です。飯ごうで炊いたご飯やうどん、

海での暮らしを日々楽しむ方々をゲストに招く「海樂(かいらく)主義」。4回目はシーカヤックで世界初の、南西諸島を含むノンストップ日本一周を達成した小西隆介さん(36)にお話をうかがいました。銀行員の職を捨ててまで挑戦したかった全行程1万キロを超える大冒険。小西さんを突き動かした原動力、そしてこれからの夢などを語っていただきました。

# 小西 隆介さん

♣ 小西 隆介 1975年茅ヶ崎生まれ。シーカヤックの魅力にとりつかれ、2010年4月8日、茅ヶ崎から日本一周の旅に出る。旅の様子をブログ『小西隆介のシーカヤックで日本一周』で配信し続ける。11年12月19日、62日間10692キロの航海の末、茅ヶ崎に無事ゴール。南西諸島を含む日本一周の完全達成は史上初、日本の最東西南北端(北:宗谷岬、東:納沙布岬、南:波照間島、西:与那国島)の制覇も前人未到。今年1月、その功績を称えられ、茅ヶ崎市から特別表彰を受ける。5月に茅ヶ崎でカヤック・クラブ「10,000kmパドラー」設立。

旅をしていると、新鮮な野菜が食べたくなるんです。コンビニのサラダはぜいたく品ですよ(笑)



レトルトのスパゲティなどお鍋1つでできる料理が多かったです。どうしてもハンバーグが食べたくなったらレストランに行きましたけど(笑)。旅をしていると、新鮮な野菜が食べたくなるんです。コンビニのサラダはぜいたく品ですよ(笑)」

——当然、危険なことも。

「スタート当初、千葉県野島崎で4㍍の三角波に襲われたんです。カヤックというのは自転車と同じで漕いでいるときほど安定するんですが、生まれて初めてパドルを上げっぱなしにして震えちゃいまして…。我に返って必死に漕いで、ようやく岸に着いたときは「明日は死ぬかもしれないな」って思いました。そういう「死ぬ思い」というのは何度もあったんですが、なぜか大丈夫なんですよね。自分には「何かある」って。与那国島で3㍍くらいの波を漕ぎ抜けた時はもう武者震いですよ。集中した世界では何かが乗り移ったような気分になるんです。そういう状態だと海の気持ちが分かるような気がするというか、自分のテンションを自然との対話の中で調整していく感覚ですね」



旅の途中で東日本大震災が起きた。幸いにも小西さん自身はこの時、西表島にいて難を逃れた。しかし地震が起きた場所は前年の春から初夏にかけて自分が渡ってきた海。知り合った人たちの顔が思い浮かんだ。

キャンプ場でテントの中にいました。管理人のおばちゃんが地震があったことを教えてくれて、今まで渡ってきた東北の沿岸を思い出して…。2日間テントの中で一日中、ただ天井を見つめて過ごしました。日本一周を断念して被災地に行くべきか、行ってできることがあるのか。自問自答する中で、自分が日本一周することが誰かの励ましになるんじゃないかな、恩返しになるんじゃないかな、と。旅を終えた後、宮古などでお世話になった方のところに行きました。

——これからやりたいこと。

正直、ゴールしたら半年くらいはゆっくり今後のことを考えたいと思っていたんですが、思いのほか取材が殺到しまして…(笑)。シーカヤックは一般の人にはまだ敷居の高いスポーツですよね。体力のある若者だけでなく、



子供からお年寄りまで楽しめるスポーツだと知ってもらいたくて、クラブを設立しました。カヤックとキャンプの楽しさを1人でも多くの人に経験してもらいたい。夏の天気の良い海だけでなく、1年を通じてやることで時間や季節、天候の流れを感じてほしい。そういう思いでやっています。

自然と接することは、自然と対話すること。それは自分自身と対話することでもあると思うんです。省エネなキャンプ生活で水も電力も大切にしてきたし、自然環境にも地元の人々にもローアンパクトを心掛けてきた。僕らは自然の一部なので、自然環境を人間が完全にコントロールしようと思うのはおこがましいことだと思います。そういうことを実体験を通して、子供たちに伝えいく必要があるんだ

と思います。家族の絆にも繋がると思いますよ。だからまずは日本一周の経験で得た日本の海の素晴らしさとシーカヤックという乗り物の素晴らしさを、もっともっと伝えていきたいですね。

## 例えば「女性の負担を減らすコミュニティづくり」という視点

### 私たちが目指す理想のまちづくり「湘南都市構想2022」

「湘南ビジョン研究会」は、10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」を地域の住民とともに策定しています。

#### 第2、第3回会議で計56の政策案

第2回策定会議を5月20日、第3回会議を6月15日に開催しました。両日ともに約20人のメンバーにご参加いただき、大変充実した議論ができました。

第3回会議では、前半に4つの分科会（「教育・スポーツ」「観光・産業」「医療・福祉」「防災・交通」）のリーダーから宿題「理想と現状・課題まとめシート」の内容を発表していただき、後半は分科会ごとに分かれ

て議論しました。そして、最後に「ワールドカフェ方式」で、自分の分科会で議論している内容を他の分科会メンバーに発表し全員で意見交換をしました。

「医療・福祉分科会」



では、政策案（プロジェクト）の一つとして「女性の負担を減らすコミュニティづくり」を議論しました。コミュニティ単位で在宅医療や介護、子育てサービスを提供すること

会議では4つの分科会に分かれて議論



により、女性の負担を軽減するとともに、ワークライフバランスのとれる地域づくりを目指すためどうすればよいか。現在、女性の負担が増えているなかで、行政、企業、N P O、住民はどのような対策が可能なのか、など様々な視点で議論し政策のブラッシュアップを図りました。

現在、4つの分科会で合計56本の政策案が出ています。「湘南都市構想2022」の策定をマラソンに例えるとまだスタートから10キロ付近だと思います。まだまだゴールは遠いですが、私たちが目指す理想のまちづくりに向けメンバー全員で協力し合って一歩一歩着実に前へ進み続けたいと思います。第4回会議は7月11日(水)19時から藤沢市民活動推進センター会議室Aで行います。みんなで自由に話し合いながら作っていきますので、参加や見学を希望される方は左記アドレスまで是非ご連絡ください。

連絡先 shonan\_vision@hotmail.co.jp 担当：片山

# Dining Bar Breeze King of Kitchen

これを1番食べてほしい、というのはないんです。全部美味しいと思ってるから(笑)

「バーでレストラン以上の食事ができたら、うれしくないですか？そう思ってやっています」と語るのは、今年9月でオープン8周年を迎える藤沢のダイニングバー「Breeze」の店主・越田剛さん。それもそのはず、フレンチやイタリアンのお店で修業を重ねてきた。経験からいえばピストロやトラットリアでも不思議ではないが「バーの方が面白いかなって思ったんですよね」

「Breeze」を訪れて見ていただきたいのは、なんといっても越田さんの手際の良さだ。25席ある店内を1人で切り盛りしている。それでいて複数のお皿がほぼ同時に届く。全てのゲストのお酒も作りながら、である。「冷蔵庫内の配置などは一応工夫していますね。見ないでも手を伸ばせば必要なものが手に取れる感覚はあります。

あとはお客様が少ない時でも絶対ゆっくり料理は作りません。体にゆっくり料理する感覺を覚えさせたくないから」

お店の看板には「King of Kitchen」。料理に自信がなければ、この名は付けられないはずだが「お金をもらう以上、自信のない皿なんて出しちゃいけないと思いますよ」とサラリ。「だから、これを1番食べてほしい、というのはないんです。全部美味しいと思ってるから(笑)」冗談めかして言うが、目は本気だ。

2年ほど前からランチで始めたラーメンも好評で、この8月に同じビルの1階で「麺処 そよ風」として独立予定だと(準備のため「Breeze」でのランチ営業は

6月末まで)。「今までお店のストックに限界がありましたが、ラーメン店が独立してスペースができたら肉料理を増やしたいんですよ。煮込みとか特に手間のかかる料理をね」



●から時計回り=石焼ケチャップナボリタン￥950、海老とアボカドのエスニック風サラダ￥850、PIZZAマルゲリータ￥800

土地柄、この湘南には新鮮な魚介類を目玉にするお店も少なくないが、越田さんの考えは少し違う。「この辺は魚屋さんやスーパーでも朝獲れた魚が買えちゃう土地じゃないですか。それを買って帰って自宅で刺身だ焼き魚だって十分美味しいでしょ？だったらあえてうちで魚じゃなくてもいいかなって。ただお肉はプロがやった方が格段にうまいと思うから、じゃあうちではそっちを食べてくださいって」



●店主の越田さん  
●バーには珍しいお座敷席も

い。価格に反映させたくないという。「そういう部分じゃなくても美味しい食事はできるんですよ、というのを伝えたい。この値段でこんなに美味しいの？というのを出したいですね」

通常、バーでつまみは頼んでも食事をする人は少数派だ。だがここでは食事率が7割を超える。「締めのパスタって言って寄ってくださる方もいますね。他でしっかり飲んで最後に寄ってパスタを胃におさめて帰るって、ラーメンか！ってね(笑)。でも正直、うれしいですね」

使い方は人それぞれ。ソフトドリンクで食事でもお酒だけでも、もちろん両方でも。ただもしお酒だけのつもりで行って隣で誰かが美味しそうに何かを食べていたら？やっぱりこっちも食べちゃうんだろうなあ。

## ◆営業時間

営業時間 18:00~27:00

木曜定休

藤沢市鵠沼石上1-8-15 2階

T E L 0466-23-1544

※藤沢南口徒歩4分。南口ファミリー通りを直進してセブンイレブンの手前、コインパーキングの向かいのビル。2時間飲み放題のプランは料理5品￥3000、7品￥4000。ほぼ全てのお酒が注文可能で、カクテルは全種OK。「正直、赤字覚悟ッス」(越田さん)

